

会報

JAISA

2021
春号
第66号



2021年度のポスターデザイン

2021年10月に開催する自動認識総合展のポスターが決定しました。このデザインは、2021年度の他のJAISA事業(展示会、自動認識システム大賞、自動認識技術者認定講習・試験など)のポスターに反映します。

会報JAISA春号 第66号 CONTENTS

JAISA研究開発センターの活動 P1

RFID部会の活動 P1~3

第23回 自動認識システム大賞 作品募集 ご案内 P4

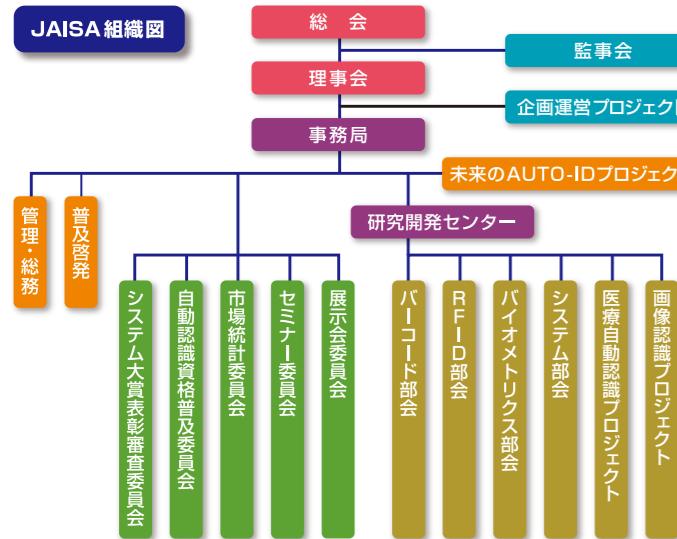
バイオメトリクス部会の活動 P5~6

バーコード部会の活動 P7

2021年度 自動認識技術者 認定講習・試験 ご案内 P8

システム部会の活動 P9

第23回 自動認識総合展 ご案内 P10

**JAISA組織と部会・運営**

一般社団法人日本自動認識システム協会（JAISA）の研究開発センターには、会員企業が入会して企業間交流を深め、また業界活性化に向けたさまざまな活動を行っている部会・プロジェクト・委員会が機能しています。（左表）

本号では、2020年度末にあたり、昨年来のコロナ禍で大きく変化した環境下で活動していただいた部会リーダーの方々に、今期の活動を振り返っていただきました。

なお、プロジェクト及び委員会の活動は次号（夏号）で紹介いたします。

RFID部会

2000年代初頭のSuica導入から、Carキーや銀行カードなど生活必需品として浸透しているRFID技術は、小売・運輸・製造分野にも導入が進む一方、現場環境によってRFIDの機能をどのように活かすか、検討とトライアルが繰り返されている。ますます需要が見込まれるRFIDは、JAISAの部会で最も入会者数が多く、活発な活動を展開している。

RFID部会の活動

SDGs（持続可能な開発目標）推進やコロナ禍における非接触・非対面の促進などに向けて、デジタルテクノロジーのさらなる活用が期待されていることから、RFID部会では以下の活動を通じて、RFIDの普及・啓発に取り組んでいます。

●国際標準化、普及活動に積極的に参画

- ISO/IEC JTC1 SC31、GS1などを通じ、RFID関連の標準化に寄与していきます。
- RFID普及の阻害要因を解決する活動に、積極的に関与していきます。

●部会活動内容及び部会活動成果の情報発信

- さまざまなユースケースやガイドラインなどの情報発信で利用者に便宜を図るとともに、利用者のニーズや課題を部会員に伝えることで、市場の活性化を図っていきます。

●会員相互の親睦を深め、コミュニケーションを円滑に行い、部会活動を活性化

- RFID活用にあたっては、ハード及びソフトの多岐に渡る構成要素が必要で、個別企業による対応は難しい状況です。そのため、部会員同士のコミュニケーションや連携を円滑に進める活動を行っていきます。

**RFID部会の活動****2.今期の活動の成果**

情報交流会がオンライン主体となったため、拘束時間や移動距離の制約がなくなり、以前の1.5倍以上の会員の方々に参加いただくことができました。また、じっくりと話を聞けることなどの理由により、多くの参加者に満足いただくことができました。

3.来期の活動方針

今期と同様に、会員のニーズに即した技術・市場動向の情報共有を図るとともに、オンライン主体でも交流促進が活発となる施策を積極的に実施し、会員間の連携が加速する取り組みを行います。

RFID技術グループ**1.RFID技術グループの運営課題と取り組み**

コロナ環境で、メンバー諸氏とのコミュニケーションが取りづらいことが課題がありました。しかし、事務局の適切なサポートもあり、Zoomによるオンライン会議がよいタイミングで開催することができ、ある程度課題を克服することができたと思います。

2.今期の活動の成果

TIPP（タグの読み取精度）評価を目的としてワーキンググループを立ち上げ、ドラッグ（化粧品など）関係業界の商品をターゲットとした活動を行いました。

会員企業の中で、タグベンダーや評価環境を保有するベンダーの方々にご協力いただきながら、測定・評価を行い、これらを取り纏めて報告書を作成する予定です。

3.来期の活動計画について

今年度のTIPP評価をもとに、来期も引き続き評価実験を行い、報告書に纏める予定です。

4.部会メンバーと来期の新メンバーへのメッセージ***現会員の皆さまへ**

RFID市場拡大に向けては、利用者のさまざまなニーズに対応するための社外連携やガイドライン策定・改訂などが必要です。今後も積極的なRFID部会への参加を宜しくお願ひいたします。

***これからメンバーになる皆さまへ**

今後社会や産業のあらゆる領域でIoTが活用されていくと考えられますが、RFIDはその主体の一つとして大きく期待されております。RFID関連ソリューションを持つ企業の皆様はもちろんのこと、今後RFID活用を検討されている利用者の皆様も、国内外のさまざまな情報共有やベンダーとのコミュニケーションを図る場としてご参加いただければ幸いです。



野口 淳 氏
RFID副会長 兼
RFID技術グループ長

**4.グループメンバーと
来期の新メンバーへのメッセージ**

RFID技術グループにご参加いただき、また活動へのご協力誠にありがとうございます。RFIDの更なる普及を目指し活動していく予定です。

本グループには日本を代表するRFIDベンダーの方々が参加してくださっています。

RFID関連の技術情報入手をご検討されている会員の方は、ご参加をご検討いただけたらと思います。



紀伊 智顕 氏
RFID部会長
兼 マーケティンググループ長

RFID部会長 兼 マーケティンググループ長	紀伊 智顕	三菱UFJリサーチ & コンサルティング(株)
副会長 兼 RFID技術グループ長	野口 淳	日本電気(株)
副会長 兼 アプリケーション技術グループ長	大塚 裕	エクサコンサルティング
マーケティング 副グループ長	金澤 一志	IDEC AUTO-ID SOLUTIONS(株)
RFD技術 副グループ長	中野 茂	大日本印刷(株)
アプリケーション技術副グループ長	三上 慎一	(株)サイレンスネット
会員数	117社	(2021年3月現在)

マーケティンググループ**1.マーケティンググループの運営課題と取り組み**

マーケティンググループの主な活動である情報交流会は、従来JAISA会議室で行われ、講演者と参加者の間での質疑、休憩時間や部会終了後の名刺交換などを通じて活発な意見交換や交流を行ってきました。しかし、コロナ禍で開催はオンライン主体となりました。

現在、Zoomのチャットやブレイクアウトルーム機能を活用していますが、機能上の制約やシステムの慣れなど個人差もあり、以前ほどの活発な交流ができるまでには至っていません。

広報 総務省 経済産業省から

<https://www.e-census2021.go.jp>

令和3年 経済センサス-活動調査 を実施します

〇本年6月1日時点における日本経済の「今」を知るため、
全国すべての事業所・企業を対象に行う国的重要な調査です。
〇「統計法」に基づき義務がありますので、
調査票が届きましたらご回答をお願いいたします。

ぜひインターネットでご回答ください！



総務省・経済産業省

アプリケーション技術グループ

1. アプリケーション技術グループ(ATG)の活動目的と方針

● 活動目的

- ・サプライチェーン・マネジメントなどにおける各種 Auto-ID を使用したアプリケーションの国際標準の制定に関わる審議などの活動を行います。特に、ISO/TC 122/WG 12 の国内審議組織である「ISO/TC 122/WG 12 国内委員会」の分科会としても積極的な審議活動を行います。

● 活動方針

- ・サプライチェーンで使用する RF タグ、バーコードシンボルや RFID に関する ISO/TC 122 の国際標準制定における調査、審議、及び提案を実行します。
- ・今期に制定した「RFID ユーザのための RFID 活用ガイドライン～製造業編～」の国内での普及・啓発と、RFID 活用の活性化を推進します。
- ・国際標準の JIS 化を始めとする国内標準化活動を行い、本協会内メンバーや関連業界に対して、その成果を会員各社へフィードバックします。
- ・自動認識技術を利用した各種システム導入における課題の抽出と解決策を審議し、ガイドラインを策定し、自動認識市場の活性化につなげます。

2. ATG の運営課題と取り組み

- ・ISO/TC 122 の国内審議の中核を担っているため、国際標準化に日本の意見をいかに盛り込むかという点で苦労することも多くあります。また、国際会議が日本時間で夜間に実施されることも大きな負担でしたが、ATG メンバー諸氏が積極的に参画してくださり、非常に助かりました。
- ・これまで ISO/TC 122 関連規格の審議を活動のメインとしてきたため、定例会が審議の有無に左右され不定期の開催でした。しかし ATG にしかできない新たな活動として、ガイドライン制定を大きな柱として取り組み、定例会を定期開催できることを嬉しく思っています。

3. 今期の活動の成果

● RFID ユーザのための RFID 活用ガイドライン～製造業編～の制定

- ・このガイドラインは現場を知り尽くした ATG メンバーだからこそ制作できたドキュメントです。導入から運用における RFID 使い方のノウハウが書かれた他に類を見ない斬新なガイドラインとなりました。

● ISO/TC 122 における TR 制定と普及啓発活動

- ・ISO/TC 122 における日本提案の RTI 関連 TR 規格 Part 1 の国際標準化の実現を支援しました。
- ・サプライチェーンでの RFID 規格である「JIS Z 066x シリーズ」の国内普及・啓発活動を実行しました。



大塚 裕 氏
RFID 副部会長
兼 アプリケーション
技術グループ長

4. 来期の活動方針と成果目標

● 活動方針

- ・サプライチェーンで使用するバーコードシンボルや RFID に関する ISO/TC 122 の国際標準制定における調査、審議、及び提案を実行します。
- ・今期に制定した「RFID ユーザのための RFID 活用ガイドライン～製造業編～」の国内での普及・啓発と、RFID 活用の活性化を推進します。

● 成果目標

- ・サプライチェーンにおけるバーコード関連規格の改訂に着手します。
- ・ISO/TC 122 における RTI 関連規格 Part 2 の新規日本提案実現を支援します。
- ・各種展示会などでのセミナー実施による、ユーザへのガイドラインの早期周知と利活用を加速させます。

5. グループメンバーと
来期の新メンバーへのメッセージ

今期は 5 名の新規メンバーが加わり、現在、13 名で活動中です。特にガイドライン制定にあたっては、現場で長年培ってきた各自のノウハウを惜しみすことなく提供していただき、素晴らしいガイドラインに仕上がったことに感謝しています。また、ガイドラインの著作権は ATG に帰属しているため、メンバーは自社の業務で自由に使用できるという大きなメリットがあります。

ATG は ISO/TC 122/WG 12 の国内審議の中核であり、バーコードや RFID の国際標準化の動向をいち早く知ることができ、これらの情報を武器に自社の業務に活かすことができます。



第23回 自動認識システム大賞

作品募集

自動認識システム大賞は、先進的かつ導入効果が極めて顕著な自動認識技術やシステムを表彰するもので、自動認識システム大賞、優秀賞ほか、各賞に賞状・副賞が授与されます。

大賞	1作品(賞状、賞金30万円)	フジサンケイ ビジネスアイ賞	1作品(賞状、賞金)
優秀賞	2作品(賞状、賞金10万円)	特別賞	1作品(賞状、賞金)

自動認識システム大賞 応募要項

■ 募集対象

自動認識に関する技術やシステムで、国内で実用されている、または実用の目途が立っているもの。海外で構築されたシステムは国内の導入実績があるもの。日本国内の企業、団体、個人でご応募ください。

■ 応募方法

以下の項目について指定の申請書に記述して、当協会にお送りください。(容量5MB以下はe-mail、以上はCD-Rで送付)

1. 技術分野：バーコード、RFID、画像認識、生体認証など
2. 申請テーマ：簡潔で分かりやすい名称を30文字以内で記述
3. 申請会社名：会社・団体、担当者、所在地、連絡先など
4. 共同申請会社：共同申請会社・団体がある場合、応募1作品につき、最大3社・団体まで
5. ユーザー名：会社・団体、担当者、連絡先など
公表できない場合は業界を明らかにすること
6. システム概要：技術やシステムの概要を300文字以内で記述
7. 申請内容詳細：新規性／技術、市場、企画などの見地で記述
導入効果／経済面、品質面、利便性を記述
社会的価値／公共性、環境、社会貢献度を記述
8. 機器、システム構成：写真や動画、図表を使って記述
9. 補足資料：優位性を説明する資料があれば同封

■ 募集条件

受賞者は、当協会が設定するセミナーなどでプレゼンテーションを行っていただきます。また、当協会が出版、寄稿する際に、掲載協力をお願いします。

■ 日程

● 募集開始 2021年3月1日(月)

● 締め切り 2021年5月31日(月)

審査：予選審査及び最終審査を行います。

予選審査を通過した申請者は、最終審査でプレゼンテーションを行っていただきます。
(但し、交通費は自己負担でお願いします)

結果発表：2021年7月30日(金)予定

当協会 Web サイトほかで公表します。

表彰式：2021年10月6日(水)*自動認識総合展にて開催予定

■ お問い合わせ

(一社)日本自動認識システム協会 事務局

Phone 03-5825-6651

✉ system-award2021@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

自動認識システム大賞は、JAISAによる
自動認識の普及・啓発のための事業です。

JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

バイオメトリクス部会

BIOMETRICS

指紋や虹彩、静脈など生体情報を用いた本人認証技術の発展が注目されている。セキュリティの強化や業務の精度・効率向上だけでなく、昨年来のコロナ禍にあって、非接触・非対面・高自動化の要求から、働き方改革と社会の安全・安心に関わる技術として、バイオメトリクス技術の担う役割は大きい。

バイオメトリクス部会の活動

●活動目的

バイオメトリクス(生体認証)技術は、"究極の本人認証技術"と言われて久しく、国境における人の移動などのホームランドセキュリティや、インターネットなどのネットワーク上における非対面の本人確認などの個人認証分野などで注目を集めている技術です。

本部会は、バイオメトリクスマーケットの更なる成長、バイオメトリクス技術の普及促進のために活動をしています。

●活動方針

- 部会活動を会員への価値提供の源泉と捉え、会員の事業に役立つ価値の提供に取り組みます。
- 国内外の関連組織と連携し、産業界に共通し、共同で解決すべき技術、社会制度、市場環境、サービスの提供者と利用者に存在する課題解決に取り組みます。
- 国内及び海外の普及に必須である、国際標準化に取り組みます。

マーケティンググループ

1. マーケティンググループの運営課題と取り組み

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの活動が中心となるとともに、見学会などの活動では3密を回避するために参加者を制限するなど、従来以上に制約の多い状態となりました。

このような環境下で、オンラインでの意見交換会や情報交流会など、幹事会メンバーを中心とした会員企業の皆様のご協力で活動を継続することができました。



森原 隆 氏
バイオメトリクス部会長
兼 マーケティンググループ長

バイオメトリクス部会長 兼 マーケティンググループ長	森原 隆	富士通(株)
マーケティング 副グループ長	金子 成徳	(株)日立製作所
精度評価技術グループ長	平野 誠治	凸版印刷(株)
会員数	17社	(2021年3月現在)

2. 今期の活動の成果

- 一般向けの「生体認証ビジネス実践セミナー」や「生体認証関連標準化セミナー」により業界活性化を推進しました。
- NEC様への見学会を実施し、会員企業様の意識が向上しました。
- 学会、セミナーの調査、市場調査と週間Webニュースの発行など、会員企業様への情報提供を行いました。
- 意見交換会、情報交流会、会員向け講演会により相互の情報交換と共通課題の発見を行いました。

3. グループメンバーと来期の新メンバーへのメッセージ

バイオメトリクス部会は比較的小規模の部会ですが、意見交換会などで会員相互の考え方を知ることができます。また、国際標準化への取り組みなどにもかかわっており、最新の技術動向を把握することができます。

部会参加企業の皆様と協力して業界の活性化につなげていきたいと考えております。より多くの、さまざまなお立場でビジネスを展開されている皆様のご参加をお待ちいたしております。

精度評価技術グループ

1. 精度評価技術グループの運営課題と取り組み

今年度の精度評価技術グループの検討会では、各メンバーが実験した成果を発表して議論をする形式が中心になったため、コロナ禍にあってもリモート会議との親和性は比較的高かったと思います。他方、成果を外部に発信する場面では、従来 face-to-face で実施していた学会や国際会議、講演会など、聴衆の反応を見ながら議論をすることが出来ず、手応えを感じにくい環境ではありました。

今後の new normal の世界では、そのような短所も踏まえて、リモート会議では①地理的制約が少なくより多くの参加者が気軽に聴講できる、②chat機能で気軽に質問がしやすい、③完全な議事録が作成できる、などの長所をうまく活かして、生産性を高めていきたいと思います。

2. 今期の活動の成果

- 精度評価技術グループ検討会 (6回)
- 新精度評価方法研修会 (5回)
- 生体認証新精度評価方法に関する国際標準化に関する検討委員会 (6回)
- 電子情報通信学会バイオメトリクス研究会 (BioX) 招待講演 (5月)
- 第10回バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム (SBRA2020) 講演 (10月)
- 統計数理研究所との技術討論会 (3回)
- ISO/IEC JTC1 SC37 国際会議 (2回)

直近の活動

生体認証ビジネス実践セミナー～新技術の活用による新たな日常の構築に向けて～

2021年2月25日(木)13:30~16:30まで、バイオメトリクス部会は、新たな日常の構築に向け、生体認証の利活用を紹介する無料オンラインセミナーを開催し、117人が参加しました。(講演概要 右表)

講演では生体認証の業界動向をはじめ、利活用の変化や導入現場の運用などが紹介されました。



日間賀 充寿 氏
バイオメトリクス部会
精度評価技術グループ長

3. 来期の活動方針と成果目標

当グループで開発した精度評価方法は、ISO/IECで国際標準化を目指して議論しており、現在作業草案第2版(WD2)まで進んでいます。今後は、参加各国の有識者の意見を取り入れつつ、国際標準規格文書としてのブラッシュアップを引き続き進めます。並行して、国内外の学会や講演会を通じて、精度評価方法の認知度向上や適用事例紹介を強力に推進していきます。

4. グループメンバーと来期の新メンバーへのメッセージ

精度評価技術グループでは生体認証業界共通の課題・問題と、その解決手法につき、技術的観点から活発に議論を行っています。また、実際にRやMatlab上でプログラムを開発、公開データベースを対象にした実験や評価をすることにより、会員相互の技術力の研鑽やノウハウの共有、成果の学会での発表など、JAISAの活動の中でもアカデミックなグループです。

業界共通の技術課題でお悩みの方、テクニカルなルールメーカーになりたい方、技術で世界を変えたいという方のご参加をお待ちしております。

●招待講演 ニューノーマルにおける新技術導入とデジタル産業政策について
経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 統括係長 根本 義規 様

●市場動向 新たな日常の構築に向けた生体認証利活用の変化
バイオメトリクス部会 部会長 森原 隆 様

●講演1 従業員とお客様に安心・便利を提供する、リテール業での生体認証活用の取り組み
富士通株式会社 生体認証事業部 販売推進部 奥瀧 乃梨子 様

●講演2 PBIを活用した安心安全なオンライン診療時の顔認証本人確認システムの開発
株式会社 日立ソリューションズ西日本 公共SL事業部 本部長 濱田 稔洋 様

バーコード部会

Barcode

1980年代にPOSシステムが急速に普及したことにより、バーコードシステムは商品を早く確実に流通させるための方法として、小売、卸、製造など多くの産業界に導入され、現在に至る。バーコード部会はJAISAの中で最も歴史のある部会で、今までバーコード及び関連製品の技術面や運用面の情報共有と課題解決により、バーコードシステムの普及と会員企業の発展に貢献してきた。



森本 圭一 氏
バーコード部会長
兼 マーケティンググループ長

バーコード部会の活動

- 会員にメリットをもたらす活動
 - ・情報の提供、関係構築
- JAISA本来の目的を果たす活動
 - ・標準化と普及活動
- 積極的な情報交流
 - ・建前から本音部分への踏み入れ

バーコード部会長 兼 マーケティンググループ長	森本 圭一	ゼネラル(株)
副部会長 兼 副マーケティンググループ長	羽切 敏明	東芝テック(株)
	三國 潤	(株)フェニックス
技術グループ長	工藤 博明	(株)マーストケンリューションズ
副グループ長	渡辺 友弘	(株)デンソーウェーブ
会員数	57社	

(2021年3月現在)

2.今期の活動の成果

情報交流会を実施することにより、参加者及び企業間の情報交換と共有ができました。

●会社＆製品案内

- ・会員企業様の中から、自社の製品をプレゼンテーションしていただきました。

●セミナーの開催

- ・啓蒙活動の一環として、バーコードに限定せずRFIDや画像など業界のトレンドを含めた、会員企業様が興味を持つテーマでセミナーを実施しました。

1.部会・グループの運営課題と取り組み

新型コロナ感染予防の観点から、通常（集合形式）の情報交流会が開催できない状況の中、幹部会の回数を増やして情報交流会開催に向けた議論を活発化し、準備を行い、Zoomを用いてオンラインで情報交流会を実施しました。しかし一部では、ご参加いただいた皆様とコミュニケーションがスムーズに行かなかったことが課題となっています。

本音が語れる情報交流会へ

情報交流会では、発表者中心の流れとなり、参加者にとって発言の機会が少ないプログラムに偏りがちです。このような流れを<建前>とすれば、建前を崩す変化を生むために交流会後に懇親の場を設け、参加者（同業、取引企業）の間でざっくばらんな意見交換を行うことで、有益な情報交換の実現に向かう<本音>に踏み込みたいと企画しています。

バーコード部会には、プリンタやスキャナを扱う機器の企業やラベルやリボンなどサプライの企業、システム開発を行う企業など多岐にわたっています。従つて分科会などで相互の情報交換ができる良い議論ができると考っています。

成熟した市場といわれる故の悩み

バーコードの市場や技術は成熟している、と認識される方も多いと思います。バーコード単独の運用や活用は普及が進み、製・配・販の現場はもとより、バーコードシステムは我々の生活の中に定着しています。

そこで情報交流会では、バーコード以外の認識技術に関するセミナーを取り入れ、他の技術と融合できるところがないか、新たな運用の形態や手法を見つけるきっかけになる活動を開拓していくたいと考えます。

3.来期の活動計画

●情報交流会を5回開催

●見学会を1回開催

2020年度の活動を踏襲し、より充実させる活動を行います。加えて、新型コロナの状況を注視し臨機応変な対応を行うために、事務局や運営に携わる方々と連携します。さらに、部会間の連絡会で討議の場を持つことを提案し、バーコードや部会への意見をヒアリングするなかで、新たな価値を見出したいと考えます。

4.部会メンバーと

来期の新メンバーへのメッセージ

参加する皆様と技術・市場動向などの情報共有を目的にして、情報交流会や見学会を定期的に開催しています。各企業様の製品紹介、自動認識技術に関するセミナーなどの情報提供のほか、業界の課題や問題の提起・検討する場もあります。

皆様のさまざまなお意見をいただきたいと考えておりますので、是非お気軽にご参加ください。



自動認識技術者 認定講習・試験 概要

■実施目的

自動認識技術やシステムの導入・改善などのニーズに対して、的確かつ迅速に対応できるエンジニアリング及びシステム業務に従事する自動認識技術者を育成し、広く活躍していただくために、講習会・試験を開催し、合格者の資格認定登録を行います。

■資格等級と対象者

●自動認識基本技術者

新入社員、大学生、一般社会人など、自動認識に関する基本的な知識の習得を目指す方。

●自動認識専門技術者

自動認識基本技術者資格を習得されている方で、より専門的な知識の習得を目指す方。

■資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。

また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。



登録証見本

*希望により非公表も有。

■認定講習・試験日程

●自動認識基本技術者

	講習・試験 日付	会場
第44回	6月18日(金)、19日(土)	東京
第45回	9月10日(金)、11日(土)	大阪
第46回	10月22日(金)、23日(土)	東京
第47回	11月19日(金)、20日(土)	名古屋

●RFID専門技術者

第16回	年1回。講習3日、試験1日で行います	
講 習	2022年2月 3日(木)～5日(土)	会場 東京
試 験	2022年2月19日(土)	

■お問い合わせ

(一社)日本自動認識システム協会 事務局

Phone 03-5825-6651

✉ license@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

自動認識技術者認定講習・試験は、JAISAによる自動認識の普及・啓発のための事業です。



システム部会

SYSTEM

自動認識技術の普及により、国内の産業は現場の効率化・省力化が進んでいる。一方、慢性化した人手不足や昨年来のコロナ禍にあって、非接触・非対面・自動化のソリューションが求められている。システム部会は、より高度化、複雑化する自動認識システムを理解し、応用の幅を広げ、更なる普及を目指している。

システム部会の活動

●活動目的

- ・自動認識技術を活用したシステム事例や新しい自動認識技術の理解を深め、システムへの応用を図り、自動認識技術の発展に役立つこと目的として活動します。

●活動方針

- ・国内事例に限らず海外も含めた自動認識の先進的な活用事例をテーマとして、年間を通じたセミナーを企画し情報提供を行います。
- ・先進的システムを導入されているユーザのシステム見学会を企画・開催し、自動認識ユーザと意見交換を行うことで、現場のシステムとオペレーションの理解を深めます。
- ・最新の自動認識技術動向とユーザニーズの把握に努めます。

1. 部会・グループの運営課題と取り組み

今年度は新型コロナ感染症の影響により、自動認識ユーザの見学会が中止されました。

情報交流会はオンラインでの開催となり、リアルな場での会員同士及びのセミナー講師との交流・懇親がしくなくなった反面、オンライン開催に習熟してきたため、従来参加いただけていない会員企業様の参加が可能となりました。このような、オンラインのメリットを生かした活動を継続しています。

2. 今期の活動の成果

自動認識システム導入事例集を改善するためのワーキンググループを立ち上げ討議を重ねました。

従来の事例集は2017年6月に公開しましたが、掲載事例が当初の想定より増加していないため、これまでの課題を洗い出し、新しいフォーマットでの事例募集を昨年11月26日にJAISA Webで更新しました。



大澤 秀次 氏
システム部会長
兼 マーケティンググループ長

システム部会長 兼 マーケティンググループ長	大澤 秀次	東芝テック(株)
副部会長 兼 マーケティンググループ長	柳下 典男	トヨーカネツ(株)
会員数	36 社	

(2021年3月現在)

3. 来期の活動目的と方針

●活動目的

- ・来期も引き続き、自動認識技術を活用したシステム事例や新技術の理解を深め、自動認識技術の発展に役立てること目的として活動します。

●活動方針

- ・徐々に定着しつつある、ニューノーマル社会の生活様式を支える新たな非接触・非対面・自動化のソリューションに着目し、このようなユーザニーズの把握とタイムリーなトピックを盛り込んだセミナーを企画・立案し、有益な情報を提供します。
- ・国内に限らず海外の自動認識の先進的な事例のセミナーも年間を通じて企画します。
- ・新たな形でのユーザー見学会を企画し、意見交換を行う環境づくりに取り組みます。

4. 部会メンバーと
来期の新メンバーへのメッセージ

システム部会では、自動認識技術の講演会やユーザ見学会を通じて、JAISA のテーマである、RFID、画像認識、バーコード、バイオメトリクス、医療など、技術や分野の領域にとらわれることなく、自動認識の最新情報をお届けします。是非ご参加ください。



AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO

第23回 自動認識総合展

2021.10.6^W-8^F モバイル&ウェアラブルゾーン
展示 画像認識ゾーン

10:00-17:00 東京ビッグサイト 南3・4ホール



主 催：一般社団法人日本自動認識システム協会

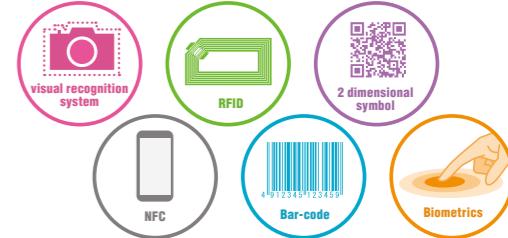
併催事業：BT Space 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com



展示会事務局 (株) シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 info@autoid-expo.com



JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

会報 JAISA 第66号 発行所：一般社団法人日本自動認識システム協会 発行人：専務理事 古村浩志

事務局：〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F TEL:03-5825-6651 FAX:03-5825-6653 [https://www.jaisa.or.jp/](http://www.jaisa.or.jp/)